

平成28年度（平成27年度対象）

教育委員会の点検・評価

平成28年12月

洞爺湖町教育委員会

も く じ

I	はじめに	1~2
	1. 点検及び評価とは	
	2. 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価	
	(1) 評価の流れ	
	(2) 評価の対象	
	(3) 事務事業における評価者	
	(4) 評価シートの作成	
	(5) 達成度評価基準	
	(6) 行政評価委員による意見・提言	
	3. 教育行政評価の公表	
II	教育委員会の活動状況	3~6
	1. 教育委員会議の開催状況	
	2. 委員の活動状況	
III	事務事業評価及び評価委員の意見・提言	7~35
IV	資料 (別添)	
	1. 平成27年度教育行政執行方針	
	2. 平成27年度各種事務事業の実績等	

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）が、平成20年4月1日から施行されました。この改正法では、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」が教育委員会に義務付けられています。

1 点検及び評価とは

教育行政の点検及び評価とは、洞爺湖町教育委員会が行っている行政活動（施策・事業）をどのような成果を上げたのかという観点から点検・評価し、その結果を改革・見直しに結びつけ、行政運営の質の向上を図るものです。また、住民にわかりやすく説明することによって、行政活動の透明性を高めるための経営手法でもあります。

(1) 点検及び評価の目的

点検及び評価の目的は、

- ①政策や行政活動（施策・事業）の質を向上させること。
- ②行政の説明責任を果たすこと。
- ③教育行政に対する町民満足度を高めることです。

2 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価

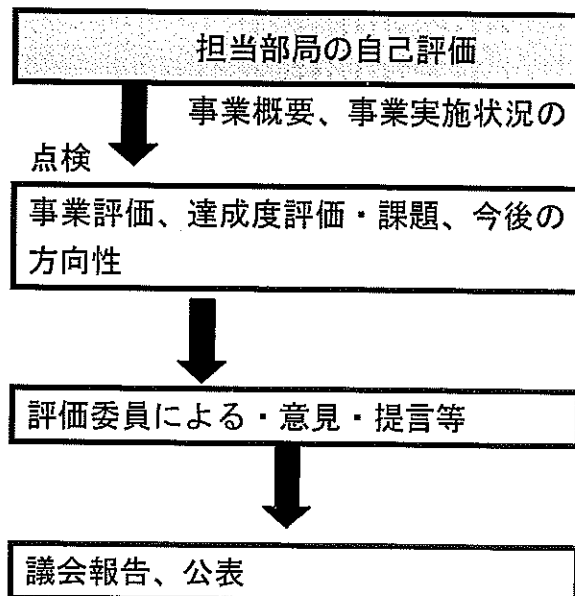
教育行政の点検及び評価をまとめて、「行政評価」とします。

(1) 評価の流れ

教育委員会による自己評価に外部の視点から評価委員の意見を組み込むことにより、行政評価の客観性や改革・見直しの実効性を高めていきます。

各担当部局では、全事務事業を対象に、所定の評価シートを用いて「自己評価」を行います。

その後、評価委員が各事務事業に対する意見・提言等を示します。



(2) 評価の対象とする事務事業

前年度の「教育行政執行方針」に明記された事務事業の主なものを評価対象とします。

なお、個々の事業をまとめた「主要施策」ごとに評価シートを作成し、評価事務の簡略化及び明確化を図ります。

※ 教育行政執行方針の括りを「推進項目」…大項目、「主要施策」…中項目、「事務事業」…小項目に分類します

(3) 事務事業における評価者

事務事業評価は、担当部局が評価者となり、評価シートは所管課が作成します。

(4) 評価シートの作成

- ①「主要施策」に括られた「事務事業」の概要を記載
- ②上記事務事業の実施状況を簡潔に記載
- ③事務事業ごとの決算額を記載（過去2カ年）
- ④担当部局の「評価」を事務事業ごとに簡潔に記載
- ⑤「達成度」について、下記の基準により評価し、簡潔な説明を記載
- ⑥「課題と対応方向」について、具体的に記載

(5) 達成度評価基準

評価対象事務事業について、事業の達成度についてA～Dの4段階で評価します。

評価	事業達成状況	
A	予定事業の実施状況について	概ね達成できた
B		一部に未実施があったが、達成度は比較的高い
C		未実施のものが多く、達成度が低い
D		ほとんど実施できなかった

(6) 行政評価委員による意見・提言

担当部局が作成した「主要施策」ごとの評価シートを行政評価委員に提示・説明し、施策・事業への意見・提言を求める。

3 教育行政評価の公表

行政評価委員の意見・提言等を記載した評価報告書を町議会に提出し、町ホームページ等で公表します。

<報告書内容>

- ①教育委員会活動報告
- ②事務事業評価シート
- ③教育行政執行方針（参考）

II 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会議開催状況

平成27年第2回臨時会 5月18日

番 号	案 件
選挙第 1号	洞爺湖町教育委員会教育長の選挙について
指定第 1号	洞爺湖町教育委員会教育長職務代理者の指定について
報告第 7号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 8号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 9号	史跡入江・高砂貝塚整備事業基本計画について

○協議会

平成27年第3回定例会 7月27日

番 号	案 件
報告第10号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第11号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第12号	洞爺湖町学校給食運営委員会(虻田・洞爺)委員の欠員補充について
報告第13号	平成26年度洞爺湖町学校給食会計決算について
報告第14号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成27年6月会議提出補正予算について(第1号))
議案第20号	洞爺湖町洞爺地区等高校生通学費等助成に関する要綱の一部改正について
議案第21号	洞爺湖町立学校教職員の処分内申について

○協議会

平成27年第3回臨時会 8月27日

番 号	案 件
報告第15号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第16号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第17号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成27年8月会議提出補正予算について(第3号))
議案第22号	平成28年度から使用する中学校用教科用図書について
議案第23号	洞爺湖町表彰条例に基づく被表彰候補者の内申について

○協議会

平成27年第4回臨時会 9月29日

番 号	案 件
報告第18号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第19号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について

報告第20号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成27年9月会議提出補正予算について(第4号))
議案第24号	洞爺湖町放課後児童クラブ「児童会洞爺湖クラブ」運営規程の一部改正について
議案第25号	史跡入江・高砂貝塚保存管理計画の策定について

○協議会

平成27年10月22日 委員会協議会

平成27年第4回定例会 10月29日

番 号	案 件
報告第21号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第22号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第26号	洞爺湖町教育支援委員会規則の一部改正について
議案第27号	洞爺湖町特別支援教育連携協議会設置要綱の一部改正について
議案第28号	洞爺湖町子ども読書活動推進計画の制定について
協議第2号	学校訪問の総括について

平成27年第5回臨時会 11月27日

番 号	案 件
報告第23号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第24号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第25号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成27年11月会議提出補正予算について(第5号))
議案第29号	洞爺湖町立学校通学区規則の一部改正について
議案第30号	平成27年度(平成26年度)教育委員会の点検・評価について
議案第31号	洞爺湖町立学校教職員の処分内申について
報告第21号	臨時代理の報告について(教育費関係補正予算専決処分)

○協議会

平成27年第6回臨時会 12月22日

番 号	案 件
報告第26号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成27年12月会議提出補正予算について(第6号))
議案第32号	洞爺湖町保育所条例施行規則の一部改正について
議案第33号	さくら保育所の休止について

○協議会

平成28年第1回定例会 1月26日

番 号	案 件
報告第 1号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 2号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 3号	平成28年度当初予算要望概要について
議案第 1号	洞爺湖町招致外国青年任用規則の全部改正について
議案第 2号	洞爺湖町立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部改正について
議案第 3号	洞爺湖町教育委員会職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部改正について

○協議会

平成28年第1回臨時会 2月18日

番 号	案 件
報告第 1号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 4号	洞爺湖町立高等学校教育職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の廃止について
議案第 5号	洞爺湖町立高等学校寄宿舎条例の廃止について
議案第 6号	洞爺湖町保育の必要性の認定等に関する基準を定める条例の一部改正について
議案第 7号	議会の議決に付すべき重要な公の施設の利用又は廃止に関する条例の一部改正について
議案第 8号	洞爺湖職員の退職管理に関する条例の制定について
議案第 9号	地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
議案第10号	洞爺湖町育英資金の基金条例施行規則の一部改正について
議案第11号	行政不服審査法の施行に伴う関係規則の整理に関する規則について
議案第12号	行政不服審査法の施行に伴う関係訓令の整理に関する訓令について
議案第13号	洞爺湖町広域入所保育実施要綱の全部改正について
議案第14号	平成27年度洞爺湖町一般会計補正予算（民生費、教育費関係）について
議案第15号	平成28年度洞爺湖町一般会計予算（民生費、教育費関係）について
議案第16号	平成28年度教育行政執行方針について

平成28年第2回定例会 3月25日

番 号	案 件
報告第 5号	臨時代理の報告について（学校教職員の人事異動について）
報告第 6号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 7号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について

議案第17号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
議案第18号	洞爺湖町立読書の家条例施行規則の制定について
議案第19号	洞爺湖町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則の全部改正について
議案第20号	洞爺湖町心身障害児保育実施要綱の一部改正について
議案第21号	洞爺湖町教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部を改正する等の規則について
議案第22号	洞爺湖町立小学校、中学校及び高等学校における物品の調達に関する規程の一部を改正する等の訓令について
議案第23号	洞爺湖町特定事業主行動計画の策定について

○協議会

2. 委員の活動について

- 4月 4日 教職員辞令交付式
- 4月 7日 町内小・中学校入学式（洞爺湖温泉中学校を除く。）
- 4月 8日 虻田高等学校入学式
- 5月17日 洞爺湖マラソン大会
- 5月25日 管内教育委員会連絡協議会総会（室蘭市）
- 7月 9日 全道教育委員研修会（札幌市）
- 7月24日 フレンドリーツアー三豊市小学生歓迎式
- 8月 4日 姉妹都市箱根町親善訪問使節団歓迎式
- 10月22日 学校訪問（とうや小学校・洞爺中学校）
- 10月26日 学校訪問（洞爺湖温泉中学校・虻田小学校）
- 11月 3日 洞爺湖町表彰式
- 11月 6日 洞爺湖町教育研究会研究大会
- 11月 9日 学校訪問（虻田中学校・虻田高等学校）
- 11月11日 学校訪問（洞爺湖温泉小学校・洞爺高等学校）
- 11月14日 洞爺湖町PTA連合会研究大会
- 1月10日 洞爺湖町成人式
- 2月23日・24日 胆振管内教育委員研修会
- 3月 1日 洞爺高等学校・虻田高等学校卒業式
- 3月11日 虻田中学校・洞爺湖温泉中学校卒業式
- 3月12日 洞爺中学校卒業式
- 3月17日 虻田小学校卒業式
- 3月18日 洞爺湖温泉小学校・とうや小学校卒業式

事務事業評価

及び評価委員の意見・提言

行政評価委員総括意見

平成27年度の教育行政執行方針に基づき実施した事業を28区分の主要施策に分け、主な事務事業について、各担当課の自己評価をもとに、第三者の立場から意見・助言を申し上げました。

評価対象の各種事務事業について、概ね予定どおり実施されており、検証も進められ、新たな事業に取り組み始めるなど、次へつながる事業の進展が見て取れます。

この度の評価をとおして感じたこととして、①学校、家庭、地域社会が連携して子どもを育てることの大切さ。②教育委員会から学校や家庭等への適切な指導、助言の必要性。③スポーツ指導者（若者）の育成。の3点です。

これら3点について、今後、なお一層の取組を進めていただくとともに、このうちスポーツ指導者の育成については、教育委員会のみでは、なかなか難しい面があると思われる、例えばUターン者の活用など何らかの仕組みを考えていくことが必要と感じます。

また、平成27年度は、洞爺湖温泉中学校と洞爺高等学校が年度末をもって閉校しました。小さな町において、時を同じくして2校が閉校の時を迎えるなどと一体、誰が想像できたでしょうか。誠に残念でありませんが、少子高齢化の流れは、止めることのできないことのように思います。

今後は、人口は減っても、町民一人ひとりが洞爺湖町に住んで良かったと思える教育環境の整備・充実に、なお一層の努力を願います。

●洞爺湖町教育委員会行政評価委員

区分	氏名	摘要
委員長	加藤 訓	虻田地区
委員	永井 信久	洞爺湖温泉地区
委員	村上 正弘	洞爺地区

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ア 子育て支援の充実				
取り組みの概要(事務事業)	一時預かり事業(新規)				
実施状況	平成26年度の子育て支援センターでの試行から、常設保育所での実施に移行。 4月から虻田地区で本町保育所、7月から洞爺湖温泉地区・洞爺地区で桜ヶ丘保育所および洞爺保育所で実施。(各保育所定員1日2名) 実績 本町保育所 128名、桜ヶ丘保育所 109名、洞爺保育所 67名 計 304名				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	常設保育所運営事業(一時預かり事業)	—	5,778	2,946	586
評価	平成26年度子育て支援センターでの試行は保育士2名の配置で実施。 保育所で行う場合、専任保育士1名配置で実施できるため、保育所での実施に移行する。 対象地域を洞爺湖温泉地区、洞爺地区と地域を拡大したことにより、地域の子育て支援のサポートができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	各保育所1日2名定員で実施しているが、利用状況では満1歳に到達と同時に利用申込があり、保育年齢では0歳児である。 その他1・2歳までと低年齢のため保育所においても対応に苦慮しているが、要望は増加傾向である。 保育士1名の配置では現状の2名定員を維持せざるを得ない。				
評価委員の意見・提言	町内3地域で適切に運営されている。利用の要望が多い場合は、受け入れ体制などの課題もあると思うが、できるだけ応えるよう努めていただきたい。				

平成28年度(平成27年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	イ 保育所の運営充実				
取り組みの概要 (事務事業)	幼・保・小連携の充実の活動推進				
実施状況	<p>保育所では連携方法を検討し、小学校参観日等に所長若しくは保育士の参加により、学校での就学した児童の様子の見学を実施している。</p> <p>3月には保育所児童要録(小学校就学児対象)を個別に作成し、持参による提出で各小学校へ引継ぎを行い連携を図っている。</p> <p>幼稚園とは幼稚園で行われたイベントに年長児が参加し交流を図った。</p>				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
		—	—	—	—
評価	<p>小学校行事への保育士等の参加で就学後の児童の様子を把握するなど、保育所・学校相互の連携の増加を図っている。</p> <p>児童要録は教育にかかわる視点で「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の項目で構成されており、具体目標に沿った児童の状況を記載している。小学校教員と直接引継ぎを行っているほか、学校側からの保育所への期待など確認し保育に取り入れている。</p>				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	<p>今後も学校・幼稚園・保育所、教員・幼稚園教諭・保育士相互の交流を通じ、就学に向けて必要な連携を図っていく必要がある。</p> <p>児童要録はより具体的に記載することにより、児童の状況をより具体的に引継ぎを行うことができる。記載の表現など研修を重ねていくことが必要である。</p> <p>また、今後においては保健師および小学校との連携により、支援を要する児童も含めたスムーズな就学に向け、取り組みに着手し実践していかなければならない。</p> <p>就学前の児童の教育・保育の連携では、保育士および幼稚園教諭の合同研修会の検討を図る。</p>				
評価委員の意見・提言	<p>幼稚園や保育所から小学校への引き継ぎなどがしっかりと行われている。今後とも幼・保・小の連携を図り、教育活動の推進に努めていただきたい。</p>				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ウ 子育て支援センター事業の推進				
取り組みの概要 (事務事業)	子育て支援体制の連携				
実施状況	<p>子育てセミナーは栄養士、保健師と連携のもと、事業を実施。 社会教育事業のブックスタートに同行し、幼児期の読み聞かせの大切さなど周知。 各保育所で月1回の保育所開放を実施し、保育所との連携を図っている。</p>				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	子育て支援センター運営事業	5,495	2,580	1,702	—
評価	<p>子育てセミナーは参加者アンケートからより参加しやすい環境づくりに努め、毎回募集型で実施したため参加しやすいとの声がある。 保育所開放は各保育所月1回実施し定着し利用は増加している。(利用延べ人数 保護者 496名、乳幼児 566名)</p>				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	<p>子育てセミナーや親子ふれあい遊びは親子が参加したい内容や参加しやすい内容を検討している。 子育てのリフレッシュができる内容は人気があるが、サークルに繋がるような活動には発展しにくい。 保育所開放は定着しているので継続して行っていく必要がある。</p>				
評価委員の意見・提言	<p>着実に事業を進めている。課題もあると思うがサークルができれば、さらにより良い活動へと繋がっていくと思われる。今後とも引続き、事業の充実に努めていただきたい。</p>				

平成28年度(平成27年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	エ 保育施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	保育所の改築の検討(新規)				
実施状況	平成28年3月をもって閉校した洞爺高校の跡地利用については、「仮称 洞爺高校メモリアル公園」として活用、公園内には洞爺保育所の建設も併せて提言されている。 洞爺保育所は老朽化が進んでいることから、提言に合わせ建設の方向で検討を進め、地域住民への説明および洞爺保育所利用者保護者を対象とした説明会を開催した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
		—	—	—	—
評価	「仮称 洞爺高校メモリアル公園」内への建設になることから、説明会開催にあたり、洞爺総合支所、管理課、建設課との打ち合わせを重ね、説明会を開催した。 別途、保育所利用者保護者への説明を行ったことにより、保育所利用者の意向を反映させることができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	洞爺地区に現在、「洞爺保育所」「さくら保育所」2か所の保育所があるが、さくら保育所については平成26年度、平成27年度と利用希望人数が少ないため休所している。 洞爺保育所の利用人数についても当初20名と定員45名の半数に満たない状況である。				
評価委員の意見・提言	洞爺保育所の新築については、計画に沿って着実に進めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	ア 学校運営の充実					
取り組みの概要(事務事業)	《取組その1》 ・学校評価制度の充実 ・教育の改善・充実の方策検討及び実施 ・全国学力・学習状況調査 ・学習支援員の配置					
実施状況	・生徒・保護者・教師に対する同一アンケートや関係者評価等を行い、集計、分析結果を学校だより等で公表した。 ・教育改善・充実の方策検討の洞爺湖町教育改善推進委員会の提言を受け、各事業を実施した。 ・平成27年度全国学力・学習状況調査を、町内全小中学校を対象に実施した。 ・基礎学力向上を図るために、学習支援員3名を配置した。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
			26年度	27年度	国・道	その他
	学校評価制度の充実		0	0	0	0
	教育の改善・充実の方策検討及び実施		538	468	0	0
	全国学力・学習状況調査の実施		0	0	0	0
	学習支援員の配置		10,586	6,230	0	0
評価	・学校評価については、町内統一項目を設定した評価が行われ、教師・児童生徒・保護者の三者間の意識差等が把握できている。 ・スタンダード10研修委員会において、ICT教育に関する研修などを行った。 ・全国学力・学習状況調査への参加及び独自の学力調査の実施により、現状の傾向や課題を把握し、分析することができた。 ・道内他の市町村にはあまり例のない町独自の学力向上対策のための支援員の配置により、授業の円滑化や学習姿勢、意欲の意識向上とともに、学力向上も図られつつある。					
達成度	A	説明	予定通り実施できた。			
課題と対応方向	・学校評価制度については、今後、コミュニティ・スクールの導入を視野に入れ、あり方について検討していかねばならない。 ・教育改善推進委員会からの提言書に基づいて、引き続き事業を実施していく必要がある。 ・学力向上のため、各学校の取り組み充実と合わせ支援策を検討していく。 ・学習支援員は、引き続き配置を継続する。また、平成27年度の実績報告書を検証し、各配置校における実施計画の遂行管理並びに実情に応じた適正配置を図っていく。					
評価委員の意見・提言	今後とも引き続き、学力の向上など教育の充実に努めていただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実				
取り組みの概要(事務事業)	《取組その2》 教育推進指導専門員の配置【新規】				
実施状況	<p>教育専門家としての立場から学校運営全般への指導助言を行い、課題解決に向けた取り組みに繋げることを目的として設置した。</p> <p>主な取組は次のとおり。</p> <p>(1)各学校で毎年度作成する教育目標達成のための諸課題の解決に向けた方策と取り組みに対する指導助言を行った。</p> <p>(2)確かな学力・学ぶ意欲を育む指導が行われているかどうかについて授業を参観して気付いたなど点について指導助言を行い、先生個々の授業改善に繋げた。</p> <p>(3)生徒指導全般に係る指導助言などを行っています。</p> <p>(4)町内小中学校の先生で組織するスタンダード10研修委員会の事務局業務を担い学力向上に関する取組やICT(タブレット)活用についての調査研究を行った。</p> <p>(5)教育支援委員会事務局業務を担い、特別支援教育の向上に努めた。</p>				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	教育推進指導専門員の配置	0	2,711	0	0
評価	<p>・教育専門家としての立場から学校運営全般への指導助言を行い、課題解決に向けた取り組みに繋げることができた。</p>				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	<p>・教育委員会ではこれまで事務職しかいなかったため学力向上やいじめ、不登校対策など、専門的な指導ができていなかったことや、指導主事の配置も困難な状況であったことから、教育推進指導専門員を配置することで、これまで教育委員会で対応に苦慮していた部分を専門的な立場から指導・助言を行い、学校への適切な指導助言により、課題解決に向けた有効な手段であるため、今後も教育推進指導専門員の配置を継続していく。</p>				
評価委員の意見・提言	<p>教育推進指導専門員の配置により、少しずつ成果が出てきていると思われる。今後とも引き続き、課題解決に向けた取り組みに努めていただきたい。</p>				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	イ 特別支援教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護員・支援員の配置 ・指導計画・教育支援計画の充実 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員6名、特別支援学級介護員8名を配置した。 ・特別な支援を要する児童生徒への個別の指導計画や支援計画の策定を順次進めており、全ての対象児童生徒の整備に向けて指導している。 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	介護員・支援員の配置	24,587	21,432	0	0
	指導計画・教育支援計画の充実	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員及び介護員の配置により、特別な支援を要する児童生徒への柔軟な対応や、授業自体の円滑化を図ることができた。 ・指導計画や支援計画については、新たに教育局のスーパーバイザーを招聘しての研修会を実施や教育支援委員会に専門部会を設置し、各学校における策定に向けた取り組みを進める事ができた。 				
達成度	A	説明	概ね予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・当町での通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒の割合は、管内他市町に比して依然として高く、更に増加傾向にある現状を踏まえ、授業の円滑化に資するために、支援員・介護員は引き続き配置を継続する。また、平成27年度の実績報告書を検証し、各配置校における実施計画の遂行管理並びに実情に応じた適正配置を図っていく。 ・個別な支援に係る各種計画策定に向け、専門部会を立上げ取組への協議を2回重ねた。より細やかな支援体制の充実や就学措置に向けた保護者への理解を求める取り組みを推進していく。 				
評価委員の意見・提言	今後とも介護員、支援員を継続して配置するなど、特別支援教育の充実に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ウ 特別教育等の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育、防災教育の推進 ・小学校用社会科副読本の改訂 ・道徳教育の充実 				
実施状況	<p>・環境教育については、温泉小学校の「緑はどうなった」事業など、各学校の状況により実施された。特に防災教育では、ジオパーク野外学習テキストを基に、洞爺湖有珠火山マイスターの協力による体験学習授業。また、平成26年度より町内中学校2年生を対象とした避難所開設体験学習が行われ、避難所生活の話、居住スペースづくり、AED操作など色々な体験を行った。</p> <p>・平成26年度において製本完了した小学校用社会科副読本の改訂版は、平成27年度から各小学校で活用している。</p> <p>・道徳教育について、「心のノート」の活用や講師を招いての全校道徳の実施。</p>				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	環境教育、防災教育の推進	0	0	0	0
	小学校用社会科副読本の改訂	535	0	0	0
	道徳教育の充実	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の実情にあわせた防災教育・環境教育が行われている。また、避難所開設体験学習では、生徒アンケートでは有意義だったとの回答が多かった。 ・小学校用社会科副読本平成27年度改訂版は、各学校における授業等で有効に活用されている。 ・「心のノート」は全小中学校の全学級で活用されている。各学校とも「道徳推進教師」を中心に、積極的な教育を行っている。 				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育・環境教育については、各学校の実情に応じて引き続き実施して行く。避難所開設体験学習については、中学2年生がこの学習を通して災害で避難所生活となった際に有効な事業であり、次年度以降も継続して実施していく。 ・小学校用社会科副読本平成27年度改訂版については、各学校における授業等での有効な利活用を図って行く。 ・道徳教育については、「道徳推進教師」を中心に、各学校の実情に応じて引き続き実施して行く。 				
評価委員の意見・提言	<p>しっかりと防災教育に取り組んでいる。今後とも、防災教育の充実に努めていただきたい。</p>				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の推進 ・フッ化物洗口事業 ・いじめ、問題行動、不登校等への対応 ・各種安全教室等の開催 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内全小中学校対象に実施した。 ・町内3小学校及び町内3中学校の全てでフッ化物洗口普及事業を実施した。 ・年2回の道教委のいじめに関するアンケート調査、学校独自のアンケート調査に加え、心理テスト(ハイパーQ-U)を実施した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーの派遣を実施した。 ・地震や火災を想定した避難訓練、交通安全教室、薬物乱用防止教室などの実施。 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	体力向上の推進	0	0	0	0
	フッ化物洗口事業の実施	210	210	0	0
	いじめ、問題行動、不登校等への対応	420	234	0	0
	各種安全教室等の開催	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査への参加により、現状の傾向や課題を把握し、分析することができた。 ・保護者の理解を深め、関係機関と連携を図り、フッ化物洗口事業を円滑に実施できた。 ・アンケート調査や心理テストの結果を検証し、いじめに関する早期発見及び所要の対応を的確に実施することができた。また、必要に応じたスクールカウンセラーの派遣により、円滑な学校運営を図ることができた。 ・各種安全教室の実施により、児童生徒の安全対応能力や防犯意識の向上が図られた。 				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上のため、各学校の取組充実と併せ支援策を検討していく。 ・フッ化物洗口は、町内小中学校全てで実施しており、今後も継続する。 ・いじめに関する各種対応については、当町独自の更なる対策強化等も検討し、引き続き実施する。また、スクールカウンセラーの派遣についても、悩みを抱える児童生徒への心に働きかけるメンタルケアが必要不可欠な現状にあることから、同様に今後も継続する。 ・各種安全教室については、今後も各学校の実情に応じて継続する。 				
評価委員の意見・提言	事業にしっかりと取り組んでいる。今後とも、事業の充実に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	オ 高校教育の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺高校の教育の充実 ・虻田高校への支援 					
実施状況	<p>・生活ビジネス科の専科校として時代のニーズに応える知識・技能を習得。 ECO プロジェクトでは、地産地消の推進事業で洞高カフェ(2回)、式典カフェ(1回)の実施。 在学中に取得可能な検定の実施(家庭科技術検定、ワープロ実務検定、実用英語検定、など)。 11月1日の閉校記念式典は閉校記念事業協賛会と高校教諭・生徒等により実施(350名出席)。 洞爺高校閉校に伴う、通学費等助成を実施(実績 対象者 28名、うち洞爺 22名、月浦 4名、花和 2名)。 ・虻田高校生徒募集活動、部活動、月浦地区スクールバス運行などの活動に対して補助を行ったほか、寮移転に伴う新寮の整備費も合わせて補助を行った。</p>					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
			26年度	27年度	国・道	その他
	洞爺高校の管理・教育振興		10,248	11,126	2,418	0
	洞青寮管理運営		19,528	16,277	0	1,810
	洞爺地区等通学費等助成金		3,012	3,012	0	0
	虻田高校への支援		5,150	6,260	0	0
評価	<p>・洞爺高校閉校年度にあたり、教員9名と3学年23名の生徒のみで洞高カフェ販売実習を実施。 閉校式典は卒業生および関係者約350名が出席、閉校記念事業協賛会および高校教諭・生徒が主体となり運営した。 洞爺高校閉校に伴う、通学費等助成は周知、申請、決定、給付事務を遅滞なく実施した。 ・虻田高校支援は、特定部活の支援により、入学者確保には繋がっているが、今後も中学卒業者が減少傾向の中、一般入学者増の効果の検証は難しい。</p>					
達成度	B	説明	達成度は比較的高い			
課題と対応方向	<p>・洞爺高校閉校後の教育委員会へ移行する業務等を高校と連携を図り移行しなければならない。 洞爺高校閉校に伴う通学費等助成は5年間の時限付きだが、以降の方向性を検討していく必要がある。 ・虻田高校は、平成25年度から事務情報科1学級となった。また、平成26年度からは地域キャンパス校となり、厳しい情勢が続いている。今後も存続に向け、支援を継続していく。</p>					
評価委員の意見・提言	残念であるが、洞爺高校が永年の歴史に幕を閉じた。今後は、町内1校のみとなる虻田高校存続のための支援に努めていただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	カ 学校施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	《取組その1》 ・学校施設の維持・管理の推進 ・耐震化工事の推進				
実施状況	・町内小中学校施設に係る工事及び修繕の実施。 ・虻田中学校耐震化工事を実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	学校施設の維持・管理の推進	20,956	26,322	0	0
	耐震化工事	25,167	62,120	34,030	0
評価	・学校施設の維持・管理については、児童生徒の安全を優先し必要箇所の工事、修繕を行った。 ・学校施設耐震化計画に基づき、計画的に耐震化を図り実施した。【2箇年事業】				
達成度	A	説明	耐震化工事については予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・学校施設の維持・管理については、今後、各学校施設が老朽化してきており、修繕及び大規模改修など計画的に進めていく必要がある。また、今後は洞爺中学校体育館に設置している吊り天井の補強を併せて計画的に実施していく。 ・耐震化工事については、町内全ての小中学校が終了した。				
評価委員の意見・提言	町内すべての小中学校の耐震化工事が完了したが、今後は、校舎等の老朽化対策などを計画的に進め、児童生徒の更なる安全確保に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課				
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進						
主要施策	カ 学校施設の整備						
取り組みの概要(事務事業)	《取組その2》 町内小中学校の適正配置【新規】						
実施状況	・町内の児童生徒数の減少を踏まえ、平成26年度に各地域の保護者等と協議を重ね町内小中学校の適正配置についての理解を得て、平成27年度末に洞爺湖温泉中学校を虻田中学校に統合した。						
事業費		事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
				26年度	27年度	国・道	その他
		町内小中学校の適正配置		0	448	0	0
評価	・1年という短い期間において遺漏なく学校間の引継ぎが完了した。また、洞爺湖温泉中学校の閉校式を実行委員会の協力を得て、滞りなく実施することができた。						
達成度	A	説明	予定通り実施できた。				
課題と対応方向	・今後も児童生徒数の減少が見込まれることから、動向を注視していく必要がある。						
評価委員の意見・提言	残念であるが、洞爺湖温泉中学校が永年の歴史に幕を閉じた。町の人口が減少していく中であって、今後においては、児童生徒数の推移を注視しながら適切な対応に努めていただきたい。						

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	キ 地域交流事業の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・箱根町との中学生交流 ・洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・町内3中学校の生徒6名と箱根町中学生6名が、町の代表として互いの町の親善訪問を実施。 ・町内小・中学校の児童生徒の参加により、合唱・バンド演奏の発表を実施。(「北海道教育の日」協賛事業として実施) 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	箱根町との中学生交流	793	846	0	0
	洞爺湖子ども芸術文化フェスティバルの実施	240	240	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市箱根町と定期的実施している事業は本事業以外なく、親善交流としては有効な事業である。 ・芸術文化フェスティバルについては、各学校の発表を通して他校の児童生徒の良さに気づき、音楽活動等への意欲向上に結びつけることができた。また、地域住民に学校での教育活動の成果の一端を発信することができた。 				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体として、町長部局か教育委員会かの問題があるが、当面は教育委員会が実施していく。内容等については引き続き検討していく。 ・虻田地区の児童生徒は小中学校共に一部の学年が参加、温泉地区、洞爺地区は全校生徒が参加し、他校児童生徒との交流や音楽活動への意欲、技能向上を図っている。今後は児童生徒数も減少していくことから、小中学校の全児童生徒が集結でき、学校教育活動の成果を地域住民へ発信する場として支援していく。 				
評価委員の意見・提言	しっかりと事業に取り組んでいる。今後とも、事業の充実に努めていただきたい。				

平成28年度(平成27年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ク 進学支援の充実				
取り組みの概要(事務事業)	・育英資金貸付及び給付事業				
実施状況	・返済を要しない入学時給付金の給付。(27年度、給付者:高校生、4名、大学生4名) (高校、中等教育学校、高等専門学校5万円、専修学校・大学10万円) ・勉強意欲のある学生への学資金貸付。 (高校生、1万円、私立高校1.3万円、専修学校・大学1.8万円) 27年度貸付対象者、高校生2名、専門学校2名、大学2名				
事業費	事務事業	貸付額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	育英資金貸付事業	552	1,104	0	0
評価	・新たに創設した入学時給付金の希望者への給付実施に向けて、手続きを進めた。 ・育英資金基金を活用して勉強意欲がある学生・保護者への経済的負担を軽減することができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	・学資金については、ふるさと納税の指定寄附により資金の確保はできている。貸付の利用は少ないが、さらに有効に運営していく。				
評価委員の意見・提言	進学支援に関わる重要な事業である。今後とも適切な運用に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ケ 学校給食の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの管理/運営 ・食育活動の充実 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養摂取による健康保持増進と体位の向上を目指し、安心・安全で栄養バランスのとれた給食の提供、食に関する指導の充実及び安全管理と衛生管理の徹底。 ・食物アレルギー症状を持つ児童生徒に対する給食(除去食及び代替飲料)の提供。 ・洞爺湖有珠山ジオパーク(小麦)も含め地場産品を使用した食材を学校給食に提供。 ・給食費収納業務の徹底。(金融機関口座引落の推進) 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	給食センターの管理運営費	46,452	46,622	0	0
	食育活動の充実	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の提供は(1日約727食:年間135,519食)、調理後2時間以内に喫食できるように配送時間を設定し、8施設への配送業務を行っている。また、食物アレルギーを持つ児童生徒の原因食物も多様化しており、学校及び保護者間等との連携を密にし、情報共有しながら対応している。アレルギー食の対応として、たまごや魚介類等のアレルギー反応が出る食材に対する除去食(4名)や牛乳に代わる麦茶等(9名)の代替飲食等を行っている。 ・地元で採れた食材を使用した野菜等を学校給食に提供。児童生徒及び教職員等からも新鮮で美味しいと好評であった。今後も継続使用を図る。 ・職員及び調理員の衛生管理意識向上により、連続「HACCP」認定を取得出来、事故無く給食提供業務を行えた。[HACCP]施設衛生管理評価6(6段階中) ・給食費納入率100%を達成出来た。 納入額: 虻田給食センター 27,339,970円・洞爺給食センター 8,010,185円 				
達成度	A	説明	ほぼ予定通りの事業を行うことができた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・虻田給食センター及び洞爺給食センターの施設維持管理及び厨房機器類整備更新を図る。 ・学校給食提供は、衛生管理の徹底に努めると共に食に対する知識を深め、安全で美味しい給食を提供できるよう今後も職員の意識向上を図る。 ・地場産物の更なる利用拡大に向けて、今後も地元業者等との連携を図る。 ・食物アレルギーを持つ児童生徒が増えていることから、今後も保護者及び各小中学校と連携し、情報共有しながらアレルギー食の対応を図る。 ・これまで、洞爺湖温泉中学校等の閉校や少子化と共に年々児童生徒数も減少しており、更には施設の老朽化も進んでいることから、今後の給食センターのあり方や方向性について検討協議する。 ・給食費については、一部食材の価格高騰はあるが、消費税増税も2年後に延びた事や二町との物資共同購入等などの自助努力をしながら、これまでの給食費並びに給食内容を継続維持できるよう努める。 				
評価委員の意見・提言	食物アレルギーを有する児童生徒は少ないが、事故が起ころぬよう保護者等との連絡を密にして取り組んでいただきたい。また、給食費収納率100%は素晴らしいことである。今後とも、事業の充実に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	イ 乳幼児事業の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業(生後7カ月の乳幼児健診時に絵本を贈呈) ・子育てメソッド形成事業(家庭教育に関する情報の提供) ※メソッド=目的を達成するための方法 ・子育てサークル等の活動支援(子育てセミナー等の開催により親同士の情報交換の場の提供) 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生後7ヶ月の乳児検診を利用し、本を通して親子のふれあいと心や言葉の発達を促し、子育てに対する意識を育てるブックスタート事業(本の贈呈)を実施(参加40名) ・小学校新入学児童説明会等を利用して、保護者に対し家庭における余暇の過ごし方等の情報提供や資料の配布により、親子のふれあいの時間を考える機会の提供 ・関係機関との連携による子育てセミナーの開催(4回-50名) 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	ブックスタート事業	26	26	0	0
	子育てメソッド形成事業	0	0	0	0
	子育てセミナー	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートは関係機関との連携も含めて予定どおり実施することができた。 ・保護者に対し、家庭でテレビやゲームのスイッチを切って、読書や談話など親子のふれあいの時間の大切さについて周知が図られた。 ・子育て中の母親同士の情報交換や学習の機会を提供することができた。 				
達成度	A	説明	おおむね予定どおりの事業が実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業における本の贈呈については、本を通じて親子関係や新生児教育に役立てていただけるよう今後も継続して親育に取組みます。また、本の贈呈を通して読書の大切さについての啓発を図ります。 ・子育てメソッド形成事業(家庭教育に関する情報の提供)は今後も継続して取組みます。 ・子育て中の母親同士の交流の場を提供し、子育てに対する情報発信などに努めます。 				
評価委員の意見・提言	乳幼児期の事業の関わりは、親育または家庭教育に結びつくものであるため、今後も継続していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ウ 少年事業の充実				
取り組みの概要(事務事業)	・地域未来塾(新規)				
実施状況	・未来塾は小中学生を対象にした学校以外での学舎の提供。基礎学力の向上や学習習慣、受験対策を実施。【開催状況】①7月17日小学生対象 ②11月14日小中学生対象 ③12月28、29日小学生対象 ④1月30日中学生対象				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	地域未来塾事業	0	74	0	0
評価	・未来塾の開催により学校、地域、行政等が連携し、4回実施(延173名)により学力向上に向けた事業実施が図られた。				
達成度	A	説明	おおむね予定どおり事業を実施することができた。		
課題と対応方向	・地域未来塾事業は、学校や地域等との連携により学力向上に繋がる事業として好評を博しており、今後は常設開催も含めて事業の充実を図ります。 ・今後の事業の開催については、学校、地域、大学生サポーター等との連携・協力により内容の充実に努めます。				
評価委員の意見・提言	学校以外の学舎の提供は、児童生徒に基礎学力の向上や学習習慣を身に付けるなど学力向上に繋がる事業として成果を上げているところから、今後も継続して実施していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進					
主要施策	ウ 少年事業の充実					
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動事業等の充実(社会体験活動、洞爺湖GENKIDS) ・ふるさとふれあいフレンドリーツアー(友好都市「三豊市」の児童との相互訪問交流) ・放課後児童健全育成事業(町内3箇所において学童保育を実施) ・子ども朝活事業 ・学校支援本部事業 					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動事業等において、社会体験活動については小学校4年生～6年生を対象に、恵庭方面へ2泊3日で40名の参加を得て実施した。また洞爺湖GENKIDSは小学校4年生～中学3年生を対象に登録会員25名で5月から3月まで10回体験活動事業等を開催し、酪農学園大学との連携も図れた。 ・小学校5、6年生を対象に長期休み(夏・冬)に乱れがちな生活リズムを整え、朝読書や学習活動、運動や体験を取り入れたプログラムにより地域や学校が連携して実施。(2回実施、56名) ・ふるさとふれあいフレンドリーツアーの実施(三豊市からの来町～18名、三豊市への訪問～13名) ・放課後児童健全育成事業は、風っ子34名、洞爺湖クラブ12名、とうや児童クラブ18名が利用。さらに、障がい児(学童まで自分で通える場合に限る)の受け入れを3箇所で開催 ・学校の支援要請に応える学習支援ボランティアを募り、地域全体で支援をおこなう体制が図られた。 					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
			26年度	27年度	国・道	その他
	体験活動事業等の充実		450	403	0	168
	子ども朝活事業の実施		0	0	0	0
	ふるさとふれあいフレンドリーツアー		1,715	1,564	0	585
	放課後児童健全育成事業		10,723	14,177	8,083	2,372
学校支援本部事業		55	26	0	0	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動事業等については、異なる学校の児童との交流や異学年交流を通じ、お互いの立場を理解し助け合う心を育む機会になっている。 ・子ども朝活については、学習の他に運動や体験で地域の方々とのふれあう機会ができた。 ・ふるさとふれあいフレンドリーツアーについては、町内3小学校を対象とした事業の定着が図られ、友好関係をより一層深めることができた。 ・放課後児童健全育成事業については、予定どおり実施することができた。 ・学校支援ボランティアの支援を行う事業が限られている。 					
達成度	A	説明	おおむね予定どおり事業を実施することができた。			
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動事業等については、多くの参加者を募り、決まりやルールを守ることの大切さを考えさせる機会としたい。酪農学園大学との連携からこれを継続して実施します。 ・子ども朝活事業の実施では児童に対し、きめ細やかな学習支援を行うための運営ボランティアの確保。 ・フレンドリーツアーの参加児童については町内3小学校を対象に実施できた。今後も継続し、事業の充実を図ります。 ・放課後児童健全育成事業については、今までどおり受け入れ態勢を継続し開設時間の検討を図ります。 ・学校支援本部事業に携わる支援ボランティアの確保と活動機会の拡大に努めます。 					
評価委員の意見・提言	<p>多くの事業が実施されており、さまざまな体験活動などを通して子どもたちの成長を促している。今後も継続して実施していただきたい。</p>					

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	エ 青年・成人教育の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学習機会の充実 ・リーダー養成 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・成人の集い 新成人となる方々の前途を祝すとともに、成人としての自覚を促す成人の集いの実施(出席者 69名) ・春の観察会 伊達市の自然団体によるガイド協力などにより月浦森林公園において自然観察会を実施。春を告げる草花や野鳥の解説をその場で受けられた。 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	成人の集い	124	111	0	0
	いきいき教室「春の観察会」	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・式典は新成人69名の他、来賓や父兄を含む多くの方々の参加をいただきました。式典終了後の祝賀会では学校ごとに学生時代の懐かしい話で溢れ、また、アトラクションでは地元の名産品が当たる抽選会を行い、会場を盛り上げました。 ・春の観察会は65名参加。伊達市の自然団体による詳しい解説も受けられ参加者も満足されていた。 				
達成度	B	説明	おおむね予定どおりの事業を実施できたが、研修事業の検討など実施に向けた課題がある。		
課題と対応方向	<p>青年リーダーの養成研修については、北海道が実施していた研修事業が終了してしまったため、地域社会を担う人材を育成していくための取組みを検討していかなければならない。就労している青年層には時期や研修先の選考など難しい状況にあるが、今後、青年団体などとの連携や各種団体へ働きかけを行い地域活性化に繋がる研修事業の実施に向けて検討します。</p> <p>・春の観察会は自然団体の協力の下、今後も継続して参加者の増に努めます。</p>				
評価委員の意見・提言	<p>青年リーダーの養成については、次代を担う人材育成に繋がるさまざまな方策を執り進めるなど、青年層への働きかけに努めていただきたい。</p>				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進					
主要施策	オ 女性事業の充実		カ 男女共同参画事業の充実			
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー養成研修の充実 ・女性団体の活動支援 ・男女を問わず身近なテーマを掲げ、地域づくりや活動促進を考える講演会を開催 					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・女性団体の活動支援をするための補助金の支出(150千円) ・胆振女性リーダー養成研修への派遣 1名 ・10月22日防災研修ホールにて「消費者のための標準化セミナー」を開催した(参加45名) 					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
			26年度	27年度	国・道	その他
	女性団体の活動支援		150	150	0	0
	リーダー養成研修		57	52	0	0
	きずな学級の実施		30	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・女性団体(ウイメンズネットワーク洞爺湖)への補助金を支出することにより団体が自ら考える自主的な活動の支援を行うことができた。また、胆振女性リーダー養成研修への派遣により、今後の女性団体活動の中核を担う女性リーダーの養成を図ることができた。 ・講演会は性別や年齢などを問わず参加を呼びかけ、参加者から日常生活で役立つ情報などの内容に好評をいただいた。 					
達成度	A	説明	おおむね予定どおり事業を実施できた。			
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・女性団体の活動支援としての補助金やリーダー養成研修への派遣は、今後も継続していく必要がある。研修の効果を高めるため研修内容の感想文の提出や発表の機会などについて継続していく必要がある。 ・女性団体の組織構成において会員の高齢化となっている状況であることから、さらに後継者の養成が必要である。 ・きずな学級は今後とも男性、女性が一緒に学べる事業の展開が図られるよう身近で関心の高いテーマを選定していく必要がある。また、アンケートなどを利用して企画内容の充実に努めます。 					
評価委員の意見・提言	今後も女性団体の活動や新たな会員の参加に繋がる取組や支援を継続して実施していただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	IV 社会教育の推進					
主要施策	キ 高齢者事業の充実					
取り組みの概要(事務事業)	・高齢者事業等の実施(いきいき学園の取組)					
実施状況	・いきいき学園 6月～3月の10回開催。登録会員:40名 第1回始業式、少年の主張大会観覧 第2回町外視察研修(札幌市) 第3回ホットサンドづくり&留学生との交流 第4回 町外視察研修(函館市) 第5回わら納豆づくり体験 第6回エコバックづくり 第7回そば打ち体験 第8回軽スポーツ(笑いヨガ) 第9回健康講話 第10回シルバー料理教室 参加延べ人数 248名					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
			26年度	27年度	国・道	その他
	いきいき学園		106	177	0	177
評価	・地域指導者や学習資源を活用しながら多様な学習機会をおおむね確保できたと思われる。 今後も楽しく学習や体験ができる企画づくりで、子どもたちと一緒に交流できる事業も含めて、広く参加を呼び掛けてまいります。					
達成度	A	説明	おおむね予定どおり事業を実施できた。			
課題と対応方向	いきいき学園の事業企画内容は好評であるが、新しい会員や男性の参加につながるような広報活動が必要である。					
評価委員の意見・提言	今後も異世代との交流を図るなど、さまざまな事業の機会提供を実施するとともに新たな会員の参加に向けて取組んでいただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 芸術文化の振興				
主要施策	ア 芸術文化活動の充実				
取り組みの概要(事務事業)	・各種発表会等の開催・支援				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化祭の実施 ステージ部門 10/24～25 あぶたふれ合いセンター (洞爺湖町文化団体協議会) 展示部門 10/31～11/2 あぶた体育館 ・洞爺湖町民文化祭の実施 展示部門 11/1～3 洞爺総合センター (とうや文化協会) 芸能部門 11/23 // ・ふれ合う心の文化広場 3/13 洞爺湖文化センター ※主催:洞爺湖町文化団体協議会 ・各種団体等との連携 町民ロビー展(開催回数 10回) 劇団札幌座との連携による演劇の実施 ・芸術鑑賞の機会の提供 復興支援演劇「イシノマキにいた時間」公演 130名 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	洞爺湖町文化団体協議会活動運営事業	300	300	0	0
	とうや文化協会活動運営事業	100	100	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合文化祭及び町民文化祭ともに、町教委との共催事業として、相互協力のもとに開催することができた。 ・町民ロビー展は、町内各団体や個人による作品発表の場となっている。 ・芸術鑑賞会では初の演劇公演を実施し、東北の復興支援の内容から町内外からの方々に来場いただいた。 				
達成度	A	説明	各事業は洞爺湖町内の文化団体相互の連携を図り、地域の文化向上に寄与している。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭開催にあたっては、回覧などのPR、準備等に関しては、行政側も積極的に協力しており、今後も芸術文化の推進と共に発表の場の提供をしていきます。 ・町民ロビー展等、各団体個人の発表の場を継続して提供し、芸術文化振興に努める。 ・今後も実行委員会組織体制の充実を図り、町民が本物の芸術文化を鑑賞できる機会を提供すると共に来場者数の増員を目指した取り組みを図ります。 				
評価委員の意見・提言	町民の創作作品の展示やステージ発表の他、本物の芸術文化を鑑賞できる機会づくりなどよく活動されている。今後も芸術文化の振興に向けた取組を継続していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 芸術文化の振興				
主要施策	イ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・高砂貝塚の保存整備事業 ・縄文まつり等企画事業 ・史跡めぐりウォークラリー 				
実施状況	<p>○高砂貝塚保存整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高砂貝塚保存整備実施設計業務委託 9,914千円 ・高砂貝塚保存整備水質調査業務委託 6,901千円 ・高砂貝塚造成工事 14,947千円 <p>○ 縄文まつり等企画事業 第7回縄文まつりの開催(入江貝塚公園 7/20 230名) 縄文ロビー講座の実施(入江・高砂貝塚館 8回 93名) 文化財防火デーの実施(1/24 27名)</p> <p>○史跡めぐりウォークラリー(清水・洞爺地区)の実施 清水地区42名 洞爺地区21名</p>				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	高砂貝塚保存整備事業	0	31,762	24,213	7,500
	縄文まつり等企画事業	54	59	0	0
	文化財防火デー	8	8	0	0
	史跡めぐりウォークラリー	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・高砂貝塚保存整備事業は平成27年度から5か年計画で高砂貝塚を含む周辺の整備に向けて実施。今後は専門家らで構成する整備委員会の意見を聞きながら整備を進めてまいります。 ・縄文まつりは地域自治会や学校等と連携し、縄文を知り、学ぶ機会づくりが図られた。 ・文化財防火デーは火災時の避難訓練を通じて、防火や文化財保護について学ぶ機会となった。 ・史跡めぐりウォークラリーは町内文化財を巡り、郷土の理解と文化の学習、健康増進が図れた。 				
達成度	A	説明	貴重な文化財の保護と活用に取組んでおり、工夫した学習機会の提供により縄文への理解が図られた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行などで学芸員による解説を行い、より理解を深めるように努めます。 ・史跡入江・高砂貝塚への関心、理解をより深めていただく取組に努めます。 ・今後も貴重な文化財の継承と理解を深めていく機会の提供に努めます。 ・史跡めぐり事業ではクイズ形式で楽しく郷土の文化を工夫するなど文化財に親しみながら学習できる取り組みを行います。 				
評価委員の意見・提言	今後貴重な縄文遺跡の情報発信などを広く図り、学習の機会提供などにより関心や理解を深めるよう取組んでいただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	ウ 文化財施設の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺地区郷土資料室の移転(新規) ・虻田郷土資料館の展示替え 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺地区における郷土資料については、旧公民館において収蔵保管しておりましたが、旧診療所を改修し、「ふるさと交流センター」として高齢者サロンと共に洞爺地区郷土資料室として活用を図るため、全ての郷土資料を移設し、開拓の歴史や地域の発展に使われてきた貴重な用具や資料を後世に伝承する空間として利用するよう施設移転と展示替えを行います。 ・虻田郷土資料館は昭和52年に洞爺湖温泉地区に設置され、平成12年の有珠山噴火により現在の高砂町へ移転。移転から10年を迎え全館を対象に展示替えを実施した。 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	洞爺地区郷土資料室への移転	0	0	0	0
	虻田郷土資料館の展示替え	0	0	0	0
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・洞爺地区の郷土資料は、文化財収蔵庫の保管分を含めて産業(農業、林業、商業など)や生活用具など1,958点もの資料が収集されており、施設への移転に併せて、地域の精通者に展示における意見を伺いながら執り進め、施設1階の一部と2階部分に収めて、地域の誰もが郷土を知るための詳細な解説板や解説資料冊子などを配して、気軽に見学し、さらに歴史を学べる場として整備することができた。 				
達成度	A	説明	おおむね予定どおりの事業が実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースを有効に活用しながら収蔵展示が図られた。今後は、展示資料の展示替えや資料の収集に努めてまいります。 ・今後とも適切な施設の維持管理に努め、利用促進を図ります。 				
評価委員の意見・提言	今後とも施設の充実と町の貴重な資料の収蔵展示、郷土の歴史を学ぶ機会の提供などに取組んでいただきたい。				

平成28年度(平成27年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 芸術文化の振興				
主要施策	エ その他、施設の整備				
取り組みの概要(事務事業)	・北海道立洞爺少年自然の家の跡地活用の検討				
実施状況	<p>・北海道立洞爺少年自然の家は昭和48年の開館以来、42年の永きにわたり、集団生活や野外活動、生涯スポーツの普及などを通して、多くの方々に利用された施設であります。老朽化等の理由から平成26年3月31日をもって廃止となりました。その後、町では道との協議を継続して行い、その結果として施設においては道で解体、跡地を町が活用することで解体後に町側へ譲渡することとなり、跡地を「えぼし岩公園」として公園条例に基づき園地管理を行うに至っております。</p>				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)
			26年度	27年度	国・道
	北海道立洞爺少年自然の家跡地活用		514	9,755	0
					その他
					9,056
評価	<p>・施設の廃止に伴い、住民懇談会や道との協議を進め、施設は解体、跡地は洞爺湖町が利活用を図ることで譲渡され、公園整備が図られた。</p>				
達成度	B	説明	跡地の整備、管理等が図られたが利活用までに至っていない。		
課題と対応方向	<p>・平成27年度はネイパル洞爺の付帯設備として残されていた諸工事(貯水槽、取水井戸、給水管などの解体撤去工事)に伴い、園地内の立ち入りが制限されていた。今後は公園としての環境整備が図られたことから、えぼし岩やフィールドを利用した取り組みが課題となっている。</p>				
評価委員の意見・提言	公園整備が図られたことから今後、事業の実施など活用を図りたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	IV 芸術文化の振興					
主要施策	エ 読書活動の振興					
取り組みの概要(事務事業)	・読書環境・活動の充実					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・あぶた読書の家での読み聞かせ(月1回)及び読書週間での読み聞かせイベント実施 ・洞爺総合センター図書室まつりの開催(年1回) ・第2次洞爺湖町子ども読書活動推進計画の策定 ・読書感想画、読書紹介文募集事業(18名,22作品) ・図書システム導入に伴う蔵書検索、貸出利用の促進、電子端末器活用など施設間整備充実。 					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)	
			26年度	27年度	国・道	その他
	読み聞かせ		15	15	0	0
	図書室まつり		10	10	0	0
	読書の家維持管理事業		7,483	12,468	4,300	0
読書感想画・紹介文募集事業		0	11	0	0	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせサークルの活動及び図書室まつりについては子どもが読書に親しみ、本を読むきっかけづくりができた。 ・第2次洞爺湖町子ども読書活動推進計画の策定による地域、学校などの連携が図られた。 ・読書感想画、読書紹介文募集事業を洞爺湖ロータリークラブとの共催で事業の継続性が図られた。 ・図書システム導入に伴い、施設間の蔵書管理や整備が充実し、読書活動の推進が図られた。 					
達成度	A	説明	概ね予定どおり事業実施ができた。			
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ機会づくりを推進するため、読み聞かせ等の事業を今後も実施していく必要がある。 ・北海道立図書館と連携した読書環境の改善や学校への図書貸出など利用促進を図ります。 ・図書システム導入に伴い、貸出方法は簡素化されるが、管理上、個人カード発行が必要となるため周知の徹底など整備内容の把握に努めます。 子ども読書活動推進計画に基づく事業の推進を図り、町内施設の蔵書の充実を図ります。 					
評価委員の意見・提言	今後とも読書活動を推進し、本に親しむ取組などを継続して実施していただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	V スポーツ活動の推進				
主要施策	ア 体育振興事業の充実				
取り組みの概要(事務事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の充実 ・体育振興事業の充実 				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの普及、推進を図るため共催、後援事業を含めて各種スポーツ大会や教室の開催において、また、スポーツ指導者向け講習会の開催など人材育成に取り組み、関係団体等との連携も図れた。 ・体育振興事業については町民が健康的な生活を送るため誰でも気軽に楽しむことができる生涯スポーツのニーズに応え、出前スポーツの実施やレークスポーツなど地域の特性を活かした体育振興が図れた。 				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(27年度)	
		26年度	27年度	国・道	その他
	スポーツ大会・教室の開催及び支援	830	811	0	280
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員等の協力をえて、さまざまな種目を取り入れた各種教室の開催や各種大会などの支援が図られた。 				
達成度	A	説明	おおむね予定どおり事業を実施できた。		
課題と対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員等の協力を得て各種教室などを実施するとともに、各種スポーツ団体等と連携を図りながら地域住民の健康の保持増進を図るとともに、継続的なスポーツの振興に努めていく必要がある。 ・スポーツ指導者の育成を今後も図っていく必要がある。 ・体育施設や学校体育館の解放事業を活用した支援を継続し、スポーツ団体の自主的な活動をサポートしていく。 				
評価委員の意見・提言	若者層のスポーツ指導者や審判員の育成を図り、多くの種目を取入れるなど町民の体力維持・増進に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	VI 社会教育施設及び社会体育施設の充実等				
主要施策	ア 社会教育施設及び社会体育施設の整備				
取り組みの概要(事務事業)	・施設の維持管理				
実施状況	・予定施設の耐震化工事が終了し、施設周辺の環境整備も図られて、施設の整備充実が図られた。 ・洞爺地区学校プール上屋シートの設置及び撤去				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(27年度)
			26年度	27年度	国・道 その他
	学校プール上屋シート配置及び撤去委託		243	243	0 0
評価	これまで施設の耐震化工事で、施設の定期利用団体等の利用調整があったが、整備に伴い環境が整った中での利用が図られた。				
達成度	A	説明	概ね予定どおり実施された。		
課題と対応方向	・今後とも利用しやすい施設の維持管理に努めるとともに、利用促進を図っていく。				
評価委員の意見・提言	今後とも有効な施設の利活用を図られたい。				

